

2.1.1.1

神話から哲学へ

ギリシア神話

2.1.1.1

神話から哲学へ

ギリシア神話

ΜΥΘΟΣ

ミュトス

ギリシア語で

神話

ΛΟΓΟΣ

ロゴス

ギリシア語で

言葉・論理・理性

理由・秩序・理法

ミュトスからロゴスへ



神話的世界観から

哲学的世界観へ

# 神話 (英myth)

：原始人・古代人・未開社会人などによって伝えられた、神聖さを帯びた物語

君は日本神話を  
知っているか？

アマテラスオオミカミ

天照大神

ヤマトタケルノミコト

日本武尊

君はギリシヤ神話

を知っている

か？

ギリシア神話

主神

ゼウス

全知全能の神。全宇宙を  
支配し、人類と神々の秩  
序を守護する天空神、オ  
リュンポス十二神をはじ  
めとする神々の王

ユピテル





ヘーラー

ジュノー

ゼウスの妃

女神の主神



**アテナ**  
**ミネルヴァ**  
**智慧と戦略の女神**  
**アテネの守護神**



# アポロン

# アポロ

音楽, 詩歌, 弓  
術, 予言, 医術,  
家畜の神, 太陽神  
秩序と理性



# ディオニュソス バッカス

豊穡とブドウ酒と  
酩酊の神

陶酔的・激情的



# アプロディーテ ウェヌス

愛と美と性の女神





『ヴィーナスの誕生』 サンドロ・ボッティチェッリ作

アレス

マルス

戦の神



# ヘルメス

# メルクリウス

商売, 盗み, 賭博,  
競技, 旅人の守護神

旧東京商科大学



# 「ギリシヤ神話」

## 百科事典の記述

日本大百科全書（ニッポニカ）

小学館

# ギリシア神話

紀元前8世紀の作品とされるホメロスの  
の二大叙事詩『イリアス』と『オ  
デュッセイア』およびこれらとほぼ  
同時代のヘシオドスの『神統記』  
『仕事と日々』を嚆矢(こうし)とする、  
現存の古代ギリシア文学に物語られ  
美術に表されて伝えられた神話。

ギリシア神話は、世界の神話のなかでも内容の豊富さにおいて際だっており、文学的価値においても傑出している。とくに欧米人の発想の源泉として、聖書とともに文学、芸術などに多くの主題を提供してきたため、欧米文化を理解するためには、ギリシア神話の知識を欠くことができない。

# イリアス

ホメロスの作とされる古代ギリシア英雄叙事詩

制作年代は紀元前8世紀の中ごろが通説

「イリオスの歌」、イリオスはトロヤの別称

トロヤ戦争の50日間について歌われている

トロヤ（トロイア）

戦争とは？

トロイア

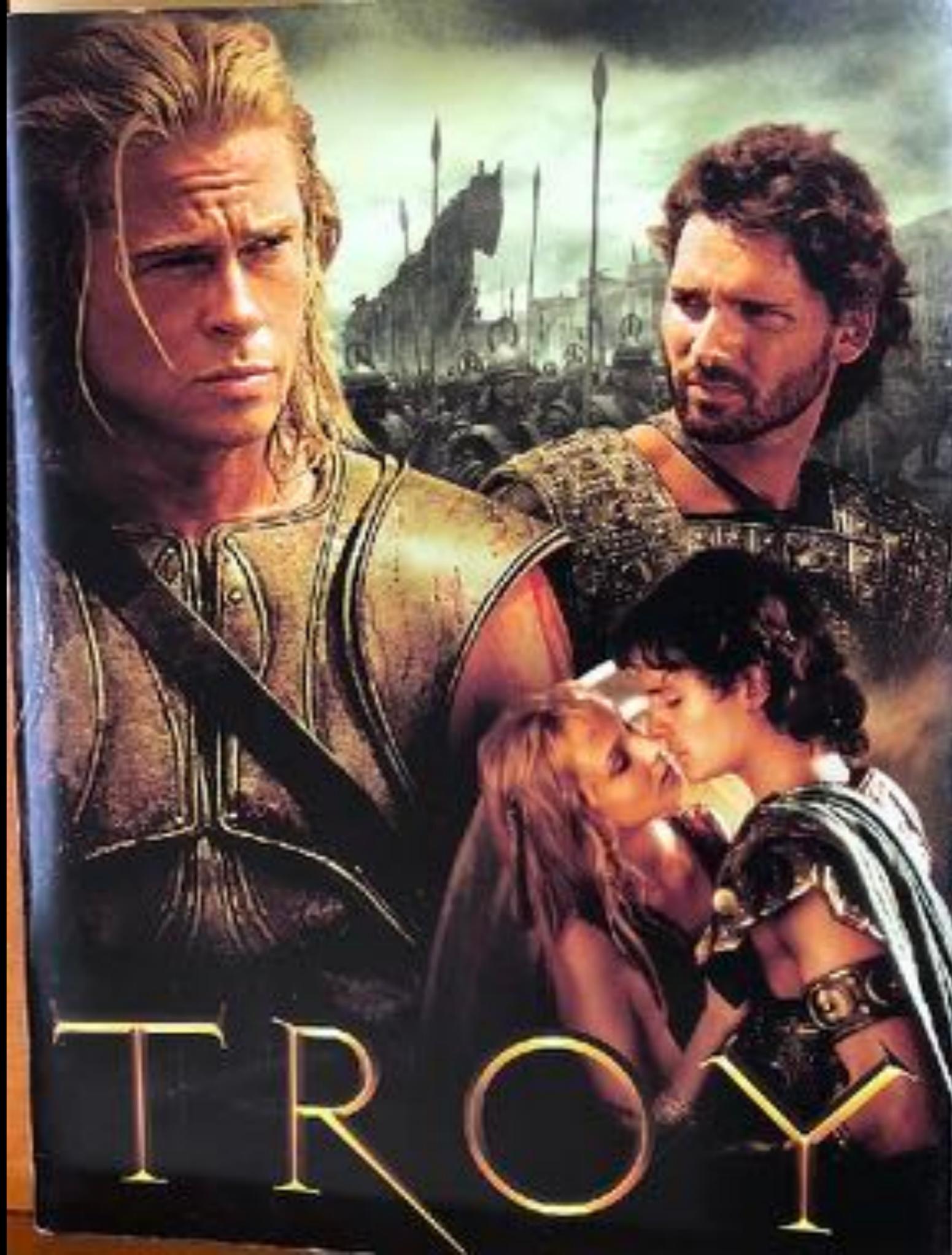
VS

ミケーネ中心ギリシア連合軍

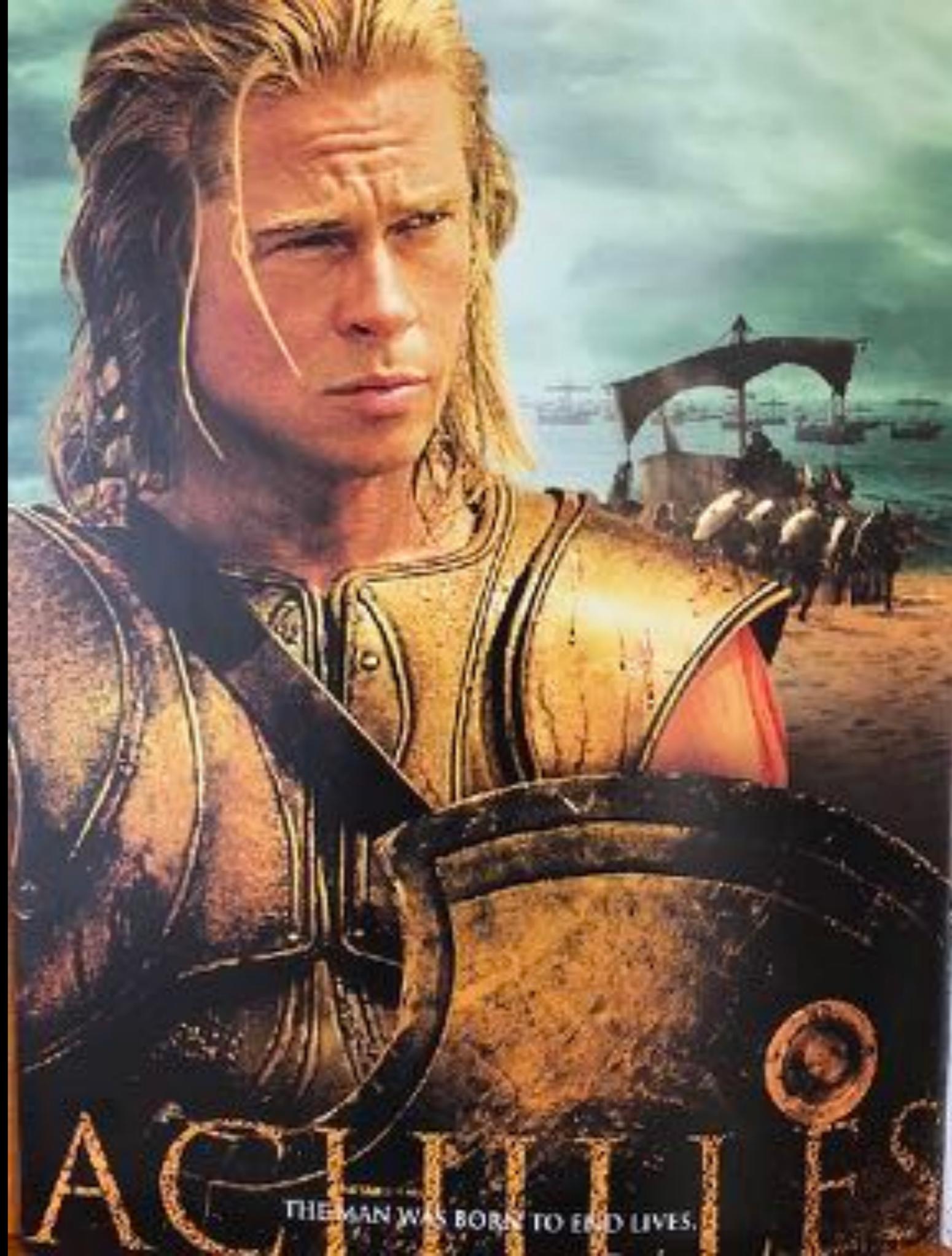
スパルタ王メネラーオスの妃

ヘレネーがトロイアの王子

パリスに奪われたことが原因

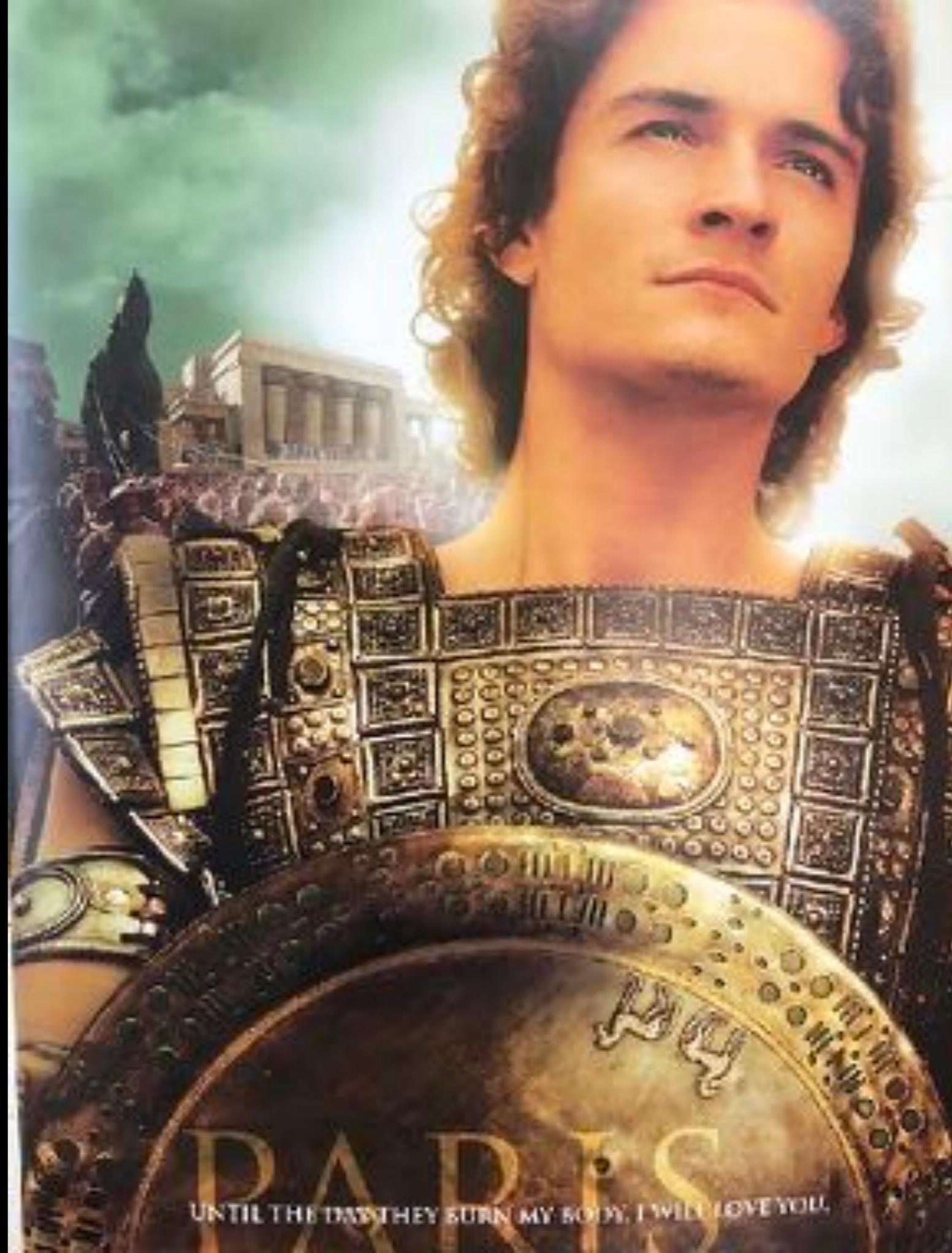


# TROY

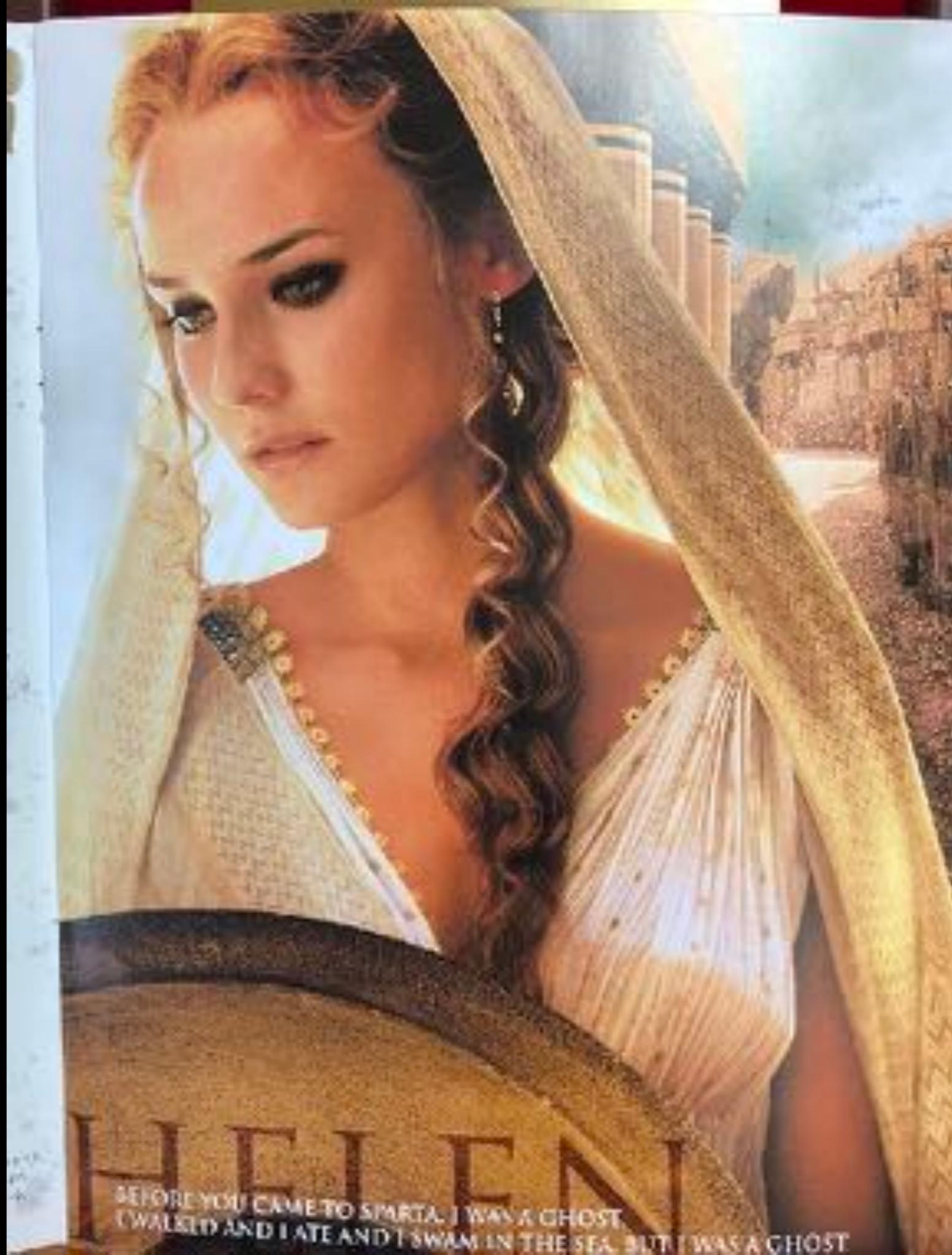


# ACHILLES

THE MAN WAS BORN TO END LIVES.



PARIS  
UNTIL THE DAY THEY BURN MY BODY, I WILL LOVE YOU.



# HELEN

BEFORE YOU CAME TO SPARTA, I WAS A GHOST.  
I WALKED AND I ATE AND I SWAM IN THE SEA, BUT I WAS A GHOST.

パリスの審判

とは？

# エチエンヌ・ジョラ 「パリスの審判」



イリアスの

あらすじ

物語はギリシアの遠征  
軍がトロイアを包囲し  
て迎えた10年目の、あ  
る49日間のできごと。

アキレウスは全軍の会議の  
席で王アガメムノンにアポ  
ロンの怒りを鎮めるため  
に、神官の娘を返すよう迫  
るが、王は代わりに彼の愛す  
る捕虜の娘を奪う。

この屈辱に怒ったアキレ  
ウスは以後の戦闘に加わ  
ることを拒み、戦局はギ  
リシシア軍に不利になる。

親友パトロク羅斯はアキ  
レウスの武具を借りて出  
撃しヘクトルに討たれ  
る。

エチエンヌ・ジョラ

「パトロクロスの死の復讐に出かけるアキレウス」



やっと怒りを解いたアキ  
レウスは新たな武具を得  
てヘクトルを討ち取り、  
その遺骸を戦車につけて  
引き回し、親友を悼んで  
盛大な葬儀を営む。

彼は遺体を請いに来た  
老プリアモスに故国の  
父をしのび、それを許  
す。

オデュッセイア

のあらすじ

トロイアを攻略した後、帰路に着いた英雄オデュッセウスがその途次漂浪を重ね、12の冒険と危機を克服して、10年の後ようやく故郷イタケー島に単身たどりつく。



ジョン・ウィリアム・ウォーターハウス  
《オデュッセウスに杯を差し出すキルケー》

ハーバート・ジェームズ・ドレイパー  
『オデュッセウスとセイレーンたち』



留守を守っているのは貞節な妻  
ペネロペとようやく成人した一  
子テレマコスであるが、近隣諸  
地の貴族らはオデュッセウスが  
すでに亡きものと思い、ペネロ  
ペと結婚し家財を乗っ取るうと  
押し掛けて彼女を苦しめる

オデュッセウスは老乞  
食に身をやつし、弓矢  
競技の場で求婚者ども  
の虚を衝いて彼らを一  
人残らず誅殺する。

ヘシオドス

『神統記』

まず原初にカオスが生じた

さてつぎに

胸幅広い大地（ガイア）

雪を戴くオリュンポスの頂に

宮居する八百万（やおよるず）の神々の

常久（とこしえ）に揺るぎない

御座（みくら）なる大地 と

路広（みちびる）の大地の奥底にある

曖々（あいあい）たるタルタロス

カオス (混沌)



コスモス

(秩序・宇宙)

Cosmetic = 化粧

【今日のまとめ】

神話で物事を説明する

ホメロス/ヘシオドス

の神話（ミュトス）

的世界観